

新型コロナウイルスをぶっ飛ばせ

密を避けて 各町のどんと焼き (1月10日)

4町合同どんと焼き

末広町(幹事)・北石堂町・南石堂町・岡田町の4町合同どんと焼きが、相生橋下流の裾花川河川敷で執り行われました。

コロナ禍の中で、御神酒やお菓子等の配りものをやめ、点火時間も例年よりも早めの11時半に、柏木末広町区長の挨拶のあと、各町の区長により組み立てられたやぐらに点火されました。

住民の皆さんも、早いコロナウィルスの終息を願い、燃え上がる炎に、手を合わせていました。



中御所・堀組

中御所の堀組祭典委員会のどんと焼きは、新しく出来上がった「中御所公園」と、「柳原神社境内」の2か所で3時から執り行われました。

堀組の小林氏子総代の挨拶のあと、組み立てられたやぐらに点火され、赤々と燃え上がりコロナ禍の中、密を避けながらのどんと焼きとなりました。

こちら、御神酒等の配りものを取りやめた、ちょっと寂しいどんと焼きになりました。



中御所・九反組

中御所の九反祭典委員会は、長安橋下流の裾花川河川敷で、3時から執り行われました。

九反組の戸谷氏子総代・臼井区長・風間顧問の挨拶のあと、やぐらに点火されました。例年なら、九反太々神楽保存会の神楽奉納がありましたが、今年はコロナ禍の中で中止となりました。

玉井祭典委員長から、マスクを用意しているので、必ず着用して欲しい旨のお願いもあり、こちらもお神酒などの配りものは、取りやめになりました。



第五地区住民自治協議会

2021

協議会だより

第64号

令和3年4月1日発行

発行 第五地区住民自治協議会/会長: 小林 忍

編集 総務広報部会 広報委員

健康福祉環境部会

おさかな教室

～おさかなで交流が広がる～

12月8日(火) 中部公民館第五分館で「おさかな教室」を開催しました。講師の小林保さん(中御所在住 元小林魚店店主)がアジの三枚おろしのデモンストレーションを行った後、参加者9名が自分でさばけるように練習しました。アジのお腹や背中に入れる包丁の角度や力加減が難しく、悪戦苦闘しながらも楽しく学ぶことが出来ました。



最後に先生が大きな鯛をさばき、その見事な手さばきに参加者からは歓声と拍手が沸き起こりました。

今回はコロナ対策のため試食会を中止にしたので、お刺身と自分でさばいたアジはお持ち帰りいただきました。後日、参加者から「アジフライにしたら最高だった」「お刺身が美味しかった」との嬉しい声が届きました。



各町からのご案内

中御所より

学業成就合格祈願祭 ～中御所堀組・御所天満宮～

中御所にある御所天満宮には、学問の神様「菅原道真公」が祀られています。

今年の合格祈願祭は、新型コロナウイルスの関係で、事前に社務所で祈願の受付があり、祈願祭当日の、1月24日はあいにくの雨模様でしたが、例年の三分の一の約20名の受験生や保護者が訪れ、まさに、コロナ禍の祈願祭になりました。

斎藤宮司からお一人おひとり名前が読み上げられ、お祝い合格祈願祝詞などが執り行われ、当日に出席できなかった受験生には、祈願を済ませた木札等が郵送されました。

小林氏子総代・臼井区長から、コロナ禍ではありますが、十分健康に注意して、受験に臨んでほしいと挨拶がありました。

今年も、大学や高校の受験者だけでなく、国家試験や就職試験への祈願者もあり、約90名の申し込みがありました。

3月28日には、合格御礼祭が執り行われます。



事務局 第五地区の活動にご意見、ご提案がありましたら、各町の区長さんまたは、事務局にお問い合わせください。

事務局

〒380-0833
長野市大字鶴賀権堂町2201番地20
権堂イーストプラザND 1階 第一から第五地区合同事務所

TEL 262-1512 (FAX共通)
メール dai5@feel.ocn.ne.jp

「安心して暮らして」いくには！ 交流の場を「広げ」「作り」人を知ろう！

町を知るために、今回は第五地区にある かるかや山 西光寺・明助山 観音寺を紹介します。

今、お寺の境内で遊んでいる子どもを見かけなくなりましたが、小さい頃に鬼ごっこや・ままごと遊びをしていた記憶のある方も多いと思います。そこで、北石堂町と中御所にある、お寺の紹介を、若住職のお二人に、地元の皆さんとのつながりを大切にしたいとの思いを込めて寄稿いただきました。

かるかや山 西光寺（北石堂町）

かるかやさんしやくしんさいとうじ
刈萱山寂照院西光寺は「絵解きの寺」「かるかや山さん」と呼び慕われる浄土宗のお寺です。説経や浄瑠璃で知られる「刈萱道心・石童丸親子^{※1}」にまつわる旧跡の一カ寺とされ、1199年（正治元年）頃に「刈萱上人」が開基されたお寺です。本尊は、刈萱道心と息子・石童丸がそれぞれ一刀三礼^{※2}で刻まれた二体の来迎地藏尊です。



西光寺 竹澤泰宏

寺宝の一つに、両上人の由縁を描いた絵伝「刈萱道心石童丸御親子御絵伝」二幅があり、これを物語る「絵解き^{※3}」を参詣される方々に実演しております。江戸時代には、御本尊や絵伝等を持って東京・両国の回向院などへ出開帳をした記録があります。

また、刈萱道心の誕生にまつわる漆黒の霊石は、安産・子授け・子育ての祈願の石として信仰されております。

さらに、善光寺現本堂造営奉行の松代藩家老 小山田平太夫茂敬氏が当山を宿舎に使用し、境内築山には小山田氏と近親者らの供養塔があり、本堂にはお位牌が祀られております。このご縁により、平成二十一年と二十七年の御開帳に、善光寺回向柱の残材で作られた回向柱を回向柱寄進建立会様よりご奉納頂きました。

亡き祖父の第五十九世住職は生前、「いつの世も人々から慕われるお寺であり、御本尊の功德を人々にお授けする手助けのできる僧侶」を心掛け、さらに、亡き父の第六十世住職は、「相手の立場になり、他者を思い、共に悩み考え、共に歩み生きることのできる僧侶」を目指していました。まだまだ浅学非才な私ですが、両上人の思いを受け継ぎ、日々精進していく所存です。

また今後の目標に、現在休止中の「かるかや縁日」を再開して、地域の方々の交流の場や心の拠りどころをつくれたらと考えております。

歴代上人をはじめ、檀信徒総代の方々、周辺地域の皆様、ご参詣頂いた数多くの方々の支えにより、長い年月をかけて今日まで御護り頂いております「かるかや山」を、今後ともよろしくお願ひ致します。

- ※1 出家した武士、刈萱道心とその息子の石道丸にまつわる悲話。説経節や浄瑠璃、歌舞伎、読本などで作品化され、説教節では「五説教」のひとつとされている。
- ※2 彫刻でのみ一刀入れることに仏へ三礼すること
- ※3 掛け軸や巻物に描かれた絵を指し示しながら物語を語り聞かせる伝統芸能。



刈萱山西光寺本堂



刈萱塚 中央は刈萱上人の御墓



「刈萱道心石童丸」の絵解き風景

明助山 観音寺（中御所）



明助山観音寺本堂



明助山観音寺本堂と馬頭観音の石標



四万八千日のにぎやかな様子



観音寺 中嶋英貴

観音寺は鎌倉時代に開かれた浄土宗のお寺です。本尊は鎌倉幕府を開いた征夷大将軍源頼朝公の守仏とされている馬頭観音像です。頼朝公が幼少の頃大病を患い生死の境をさまよった折この仏の仏力により九死に一生を得てからというも頼朝公を加護し幾度と災いから身を守ってきた守仏であります。建久8年（1197年）に頼朝公が自身の手で再建を果たした善光寺参詣の折、この地に逗留した際「此所は我有縁の霊地なれば、ここに留まりて末世の衆生を化度せん^{※1}」とこの仏よりお告げがあった為、仏を安置し一宇の伽藍を草創^{※2}したことが当山の始まりとされております。尚現在の堂宇は文化10年（1813年）に再建されたもので、また頼朝公の馬頭観音像の他に北条政子尼の聖観音像などが納められております。

また当山は地域の皆様方から四万八千日のお寺としても親んでいただいております、毎年8月9日は「この日に参拝すると四万八千日参拝したのと同じだけの功德がある」とされ多くの方が参拝に参られます。先述の馬頭観世音像もこの日に併せてご開帳している他、併せて縁日や子供腕相撲大会もにぎやかで、昭和40年代頃までは参詣客が一万人を超え、街道が人込みであふれていたようです。

令和という新たな時代を迎え街の風景も様変わりし、少子高齢化や若者の都市流出により地域内での人々の交流が寂しくなったよう感じられます。特にお寺は子供の遊び場や町の方々の交流の場でしたが近年はそのような姿も見ることが少なくなりました。法要等仏事のみではなく地域に対して開かれた住民の方々が気軽に集まれる 交流の場として開放できるよう思案しておりますので、地域の皆様方からの忌憚のない意見やご提案いただければ幸いに存じております。

- ※1 この地は私（髻観音像）の縁の深い土地であるので、この場所に留まり末法（仏教が廃れた時代）に生きる人々を教え導き、迷いの世界から救い取ろうという意味。
- ※2 一棟のお堂を建てること。